

目次

p2 新事務局長および復帰した3名のご挨拶

Ва

6q 事業地の声

三者対談「私たち、戻ってきました!」 р7

夏のスタディツアーを開催します! **8**q /あなたのアイキャンをお寄せください!

- • 新たに事務局長に就任した福田と、復帰した3名:吉田、 柴田、天羽(中村)のご挨拶です。
- 「フィリピンでの30年の経験を日本社会へ還元」・・・事務局長の福田が、フィリピンに駐在していた10年と アイキャンの30年を振り返り、その想いとこれからの アイキャンについて語りました。
- p4-5 活動ダイジェスト/マンスリーパートナー様の声・・・2022年度後期の活動についてご報告するとともに、 マンスリーパートナー様の声をご紹介します。
 - • ・児童養護施設「子どもの家」の子どもと施設長からの メッセージをお届けします。
 - ・・・2023年に再入職した3名:吉田、柴田、天羽(中村) が、復帰した理由や今後への決意を語り合いました。
 - ・・・2023年夏のスタディツアーのご案内と、春のツアー 参加者の声をご紹介します。また、未投函ハガキや古 本等のご寄付に関するご案内をしています。

2023年2月、事務局長に就任しました!



〜プロフィール〜 フィリピン大学修 士課程、ICANマニラ事務所インターンを経て、 2013年4月に入職。社会福祉士。 いつもアイキャンの活動を応援してくださり、誠にありがとうございます。 2023年2月に事務局長に就任しました、福田浩之(ふくた ひろゆき)です。

私は、2012年11月にアイキャン・マニラ事務所のインターン生となり、2013年4月に職員となりました。その後は、ミンダナオ島の先住民の子どもたちや紛争地の子どもたちへの教育や平和構築に関する事業、大型台風の被害を受けたレイテ島の人々に対する緊急救援活動に従事し、2017年からはマニラの路上の子どもたちの保護や教育、栄養改善のための活動を担当してきました。

フィリピンでは、現地の人々と向き合い、対話し、喜怒哀楽をともにしながら、 日々活動する中で、多くの学びと経験を得ることができました。日本に戻ってきて 事務局長となった今、これまで私がフィリピンでの10年間で得た学び、培ってきた 経験を、国内外の活動に活かしていきたいと考えています。

今年、アイキャンは設立から30年目となりました。私の想いとこれからのアイキャンについて、次ページで語っていますので、ぜひお読みいただければ幸いです。

私たち、戻ってきました!

以前勤めていた3名が、今年再入職しました! P7の三者対談もぜひご覧ください!



吉田 文(よしだ あや)

2009年に入職。日本事務局において、スタディツアー・研修、路上の子ども事業等を担当。2023年4月より、日本事務局職員として復帰。

自分に「できること」をしようとするフィリピンの皆さん、日本の皆さんと、 また一緒に活動できることが本当に嬉しいです! 皆さんの存在が私の心を明る く、強くしてくださいます。活動に尽力していきます!

柴田 康平(しばた こうへい)

2017年6月~18年3月に日本事務局インターン。2021年3月に入職し、駐在員としてジブチ事業を担当。2023年4月より、フィリピン事務所駐在員として復帰。

インターン時代に一緒に街頭募金をしてくださった皆さん、日本事務局でお話させていただいた皆さん、アイキャンに帰ってきました! 皆さんの想いを大切に、フィリピンで最善を尽くしていきます。帰国報告会で再会しましょう!



天羽(中村)由実子(あもう ゆみこ)

2012年12月に入職。日本事務局において、国際理解教育、NGO相談員、広報等を担当。2023年1月より、日本事務局アシスタントとして復帰。



約5年ぶりにアイキャンに戻ってきて、以前からのパートナーの方が今も変わらず応援してくださっていること、また離れていた間に新たにパートナーになってくださった方も沢山いることを知り、とても嬉しく思っています。これからもよろしくお願いします!

フィリピンでの30年の経験を日本社会へ還元

~誰もが自分の「できること」を発揮できる社会を目指して~

事務局長 福田浩之



~フィリピンでの10年間で得た学びと確信~

私は約10年間フィリピンに駐在し、先住民の子どもたち、紛争地の子どもたち、災害被災地の子どもたち、そして路上の子どもたちといった、あらゆる状況下にある子どもたちと丁寧に対話をしながら活動してきました。それは、環境的・社会構造的に「危機的状況」に置かれ、その「能力」を十分に発揮することができない子どもたちの過酷な現状を目の当たりにするとともに、子どもたちの強さや優しさを肌で感じる日々でした。同時に、機会さえあれば人は「力」を発揮できる、ということをこの10年で確信しています。

~フィリピンにも日本にも潜む「危機的状況」~

アイキャンがこれまで関わってきた子どもたちの中でも、特に路上の子どもたちは、家庭・学校・地域・政府から見捨てられ、「どうせ自分なんて」と自信を失ってしまい、自分自身を見捨ててしまう状態に追いやられています。私たちは、子どもたちが「危機的状況」にあると感じ、何とかしたいという一心で活動してきました。

日本を離れている間も、私は日本のニュースには常に目を向けていました。その中で、貧困や不登校、未来を 悲観する若者といった言葉が多く聞かれるようになったと感じています。上で述べたフィリピンの子どもたちの 「危機的状況」が、原因や背景は違えど、日本で暮らす子ども・若者たちにも迫っているように感じ、何かでき ることはないかと常々考えてきました。

~アイキャンの30年の学びと経験を日本社会へ~

世界を見ると、感染症や貧困の拡大、紛争の勃発や経済ショックなど、ネガティブなニュースが目立ちます。 しかし、アイキャンは過去30年間に渡ってフィリピンに根を張り、「危機的状況」にある子どもたちに寄り添い、 その力を引き出す活動(エンパワメント)を行ってきました。そして、そのような子どもたちが、希望を持って、 できることをひた向きに頑張り、社会は自分の手で変えられると信じて行動する姿も間近で見てきました。

これからは、私たちの学びと経験を日本社会にも還元していけるよう、アイキャンとして行動していきたいと思っています。まだ正直、何ができるのか明確な答えは出ていません。ただ、今言えるのは、人々の「カ」を引き出す「エンパワメント」の経験は、アイキャンが30年間一貫してフィリピンで行ってきた強みである、ということです。「誰もが自分の力を発揮できる社会」を目指し、ぜひ皆様の「カ」もお貸しいただきたいです。どうかこれからも、よろしくお願いいたします。



活動ダイジェスト

2022年11月~2023年4月のアイキャンの活動

■ 1. フィリピン事業

く子どもの家>

- 身寄りのない元路上の子ども17名が愛情あふれる適切な住環境で生活し、継続的 に学校に通うことができました。
- 現地のパートナー企業のボランティア7名とともに、「子どもの家」で生活する子 どものうち16名が、社会見学と体験学習の一環で遊園地に行きました。

<路上教育>

- マニラ市内の路上で生活している子ども14名に対して、問題解決に関する研修を 1回実施しました。
- 元路上の若者の協同組合「カリエ」のメンバー6名と協働し、「子どもの家」で生活する子ども16名に対して、問題解決と自己決定に関する研修を1回実施しました。







<職業訓練:元路上の若者の協同組合「カリエ」の活動>

- シフォンケーキの販売を通した自立の実現に向け、古くて温度調節ができないオーブンを買い替えるためのクラウドファンディングを実施し、延べ312名から支援を頂き、目標金額の350万円を超える3,666,775円を集めることができました。集まった資金を活用し、新しいオーブン、冷蔵庫、製菓道具を購入しました。
- 日本のシフォンケーキ専門店の協力を仰ぎ、カリエメンバー9名を対象に、シフォンケーキ製作の研修をオンライン及び実地で計15回実施し、延べ60名が参加しました。クラウドファンディング達成の12月には、シフォンケーキ専門店の店主を現地へ招き、カリエメンバーに対して、シフォンケーキが膨らむ原理や、シフォンケーキの作り方、マーケティングに関する研修を実施しました。
- クリスマスバザーとサタデーマーケットに出店し、パンと新商品のシフォンケーキ を販売しました。

く栄養改善活動>

- マニラ市トンド地区に住む3~5歳の栄養不良の幼児83名に対して、住民組織とともに給食活動を116回実施し、延べ5.538名が参加しました。
- 現地企業より受け取った栄養価の高い食事セットを、マニラ首都圏の貧困地域に住む480世帯に4回提供しました。
- トンド地区にあるバセコ地域の住民組織メンバー11名が、事前調査の結果をもとに、保護者150名に対し、日々の食事のメニューにおいて足りていない栄養素、食事の量の過不足、安価に日々の食事を改善できる方法を伝えました。
- バセコ地域の住民組織メンバー11名が、多くの子どもたちが低栄養状態にある状況を踏まえ、日々の食事を改善して子どもたちの栄養を改善する重要性を訴える動画を作成しました。作成した動画は、バセコ地域のバスケットコートを借りて、250名の住民に対して上映しました。
- 「日々の食事内容の改善~家族に栄養のある食事を~」をテーマにした啓発ポスターコンテストを開催し、バセコ地域の母親と若者計20名と地域の保健師及び栄養士各2名が参加しました。ポスターコンテストは、投票箱を通した投票とオンライン上(当団体のフェイスブック上での「いいね」を通した投票)で投票を行い、優勝者を決定しました。投票数は212票に達し、フェイスブック上の啓発ポスターは、合計2,838名に閲覧されました。







2. 能力強化事業(日本)





- 中学校~高校までの教育機関で、難民に対する取り組みや子どもの権利についての講演を4件、計267名に対して行いました。
- NGO相談員として講演を6件実施し、小学生~大学生ら188名に、「子どもの権利条約」や国際協力NGOの役割、アイキャンの活動ついてお話するとともに、就職相談やキャリア設計について紹介しました。また、NGOの活動や組織運営、国際理解教育等に関する質問を、合計510件受け付けました。
- 日本事務局にて1名のインターン生を受け入れ、フェアトレード事業の補佐・ 街頭募金活動の実施・イベント出展等を担当してもらいました。
- 3月にスタディツアーを2回開催し、計14名が参加しました。また、オンラインでスタディプログラムを1回開催し、16名が参加しました。事業地訪問は5件、計19名を受け入れました。

| 3. ボランティア・寄付活動推進事業(日本)

- 書き損じハガキ(合計42,447枚)や、古本や不要品(寄付件数25件)の収集活動を行いました。
- 2023年4月末時点のマンスリーパートナーは265名、「子どもの家ファミリープログラム」は12件でした。
- 「フェアトレードミニマルシェ」に出店し、インターンとボランティア計2名 がフェアトレード商品の販売を行いました。
- 名古屋市主催の「なごやNPO応援事業」に参加し、なごやNPOかるたコンテストや、ファミリークラウンサーカスでのフェアトレード商品販売や活動紹介を行いました。かるたコンテストでは、オンライン投票により、20団体中3位になり、「なごやNPO応援寄附金」から99,600円が寄付されました。
- 街頭募金を5回実施し、延べ52名のボランティアに参加いただき、約340名 の方々が募金してくださいました。
- 延べ89名が事務局ボランティアを行ってくださいました。







アイキャンのかるた

| 4. 多文化共生事業(日本)

● 愛知県及び岐阜県の在住フィリピン人50名、自治体(愛知県名古屋市、岐阜県可児市・美濃加茂市)3つ、 愛知県および岐阜県内の小中学校21校、企業4社と6つの市民団体に対し、生活上の課題及び対応について の聞き取り調査を実施し、その報告書を300部作成しました。

「マンスリーパートナー」になって、ともに活動していただけませんか?

マンスリーパートナーは、月々500円(1日17円)から一定額をご寄付いただき、アイキャンの活動および運営に活用させていただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。ぜひマンスリーパートナーになって「ともに」活動してください!



マンスリーパートナー様の声 村田 直美 さん

↑詳しくはこちら



数年前、娘がマンスリーパートナーになったのをきっかけに、自宅に会報が届くようになりました。それがアイキャンとの出会いです。会報を読んでいるうちに、私も何かしたいと思い、マンスリーパートナーになりました。アイキャンの「人々とともに」という考えや、「一人ひとりのできることを」という考えに共感し、昨年12月から日本事務局のボランティアとしても参加するようになりました。子どもたちの笑顔がずっと続くよう、今後も微力ながら応援していきたいと思っています。

事業地の声

フィリピン

児童養護施設「子どもの家」の子どもと施設長の声

アイキャンでは、2016年より児童養護施設「子どもの家」を運営しており、身寄りのない子どもや育児放棄された子どもたちに、安全かつ愛情にあふれる「家庭」を提供しています。今回は、「子どもの家」で暮らすジョイ君(仮名)と施設長に話を聞きました。



パン屋の絵を描いたジョイ君と、カリエメンバー

ジョイ君 (仮名) 12歳

僕は2年前から「子どもの家」で暮らしています。僕の将来の夢は、パン屋をオープンすることです。「カリエ」*のお兄さん、お姉さんが、「子どもの家」でパンやシフォンケーキを作ってくれる姿がかっこよかったからです。また、僕たちにも作り方を教えてくれて、一緒にパンを作ったその時間がとっても楽しく、自分もパンを作れるようになりたいと思ったからです。

*カリエ…以前路上にいた若者たちが、自立を目指して運営する協同組合。パン等の製造・販売を中心に行っている。



マリテス(施設長)

~ご挨拶~

「子どもの家」の運営や、ここで暮らす子どもたちを応援してくださり、ありがとう ございます。現在、10~14歳の子ども16名が、毎日栄養ある食事を取り、学校に通い、 元気に暮らしています。

~ 「夢」を語れるようになった子どもたち~

ほとんどの子どもたちは、路上で生活をしていた頃、学校に通うことができていなかったため、実年齢よりも低い学年で勉強せざるを得ませんが、「子どもの家」で働く教師のサポートも受けながら、懸命に学業に取り組んでいます。また、路上にいた過去があっても、知識や技術を習得することで夢を叶えることができた「カリエ」の若者との交流を盛んに行うことで、徐々に自信を持てるようになってきました。上のジョイ君の将来の夢も、その中で生まれたものです。他の子どもたちも、警察官、消防士、ハウスペアレント(施設等で生活や食事の世話をするスタッフ)といった様々な夢を語るようになりました。

~「子どもの家」を退所した後の課題~

これまで、私たちは、身寄りのない路上の子どもたちの「保護」に力を入れてきましたが、今懸念しているのは、「子どもの家」を出た後の子どもたちのことです。

政府は、子どもたちの自立を妨げないよう、原則3年以内に施設を出て家族の元に戻ることを推奨しています。しかし退所後は、教育や医療、生活に関する政府からの十分な支援はありません。そのため、子どもたちは、家族の元に戻ることができたとしても、家族を支えるために通学を断念し、再び路上で働かざるを得なくなる恐れがあります。

~私の願い~

「子どもの家」は、子どもたちが路上から出て生活し、通学しながら、将来の夢に向かって歩むスタート地点だと思っています。そこから、子どもたちが歩みを止めず、退所した後も勉強を続け、安定した職に就いて自立できるよう、何らかのサポートをしたいというのが、今の私の願いです。ジョイ君の場合であれば、パン作りの知識と技術を習得できるよう、「カリエ」に加入してもらうことも一つの方法だと思いますが、他の夢を持つ子どもたちについても、退所後も諦めずに歩んでいけるよう見守りながら、自立への道筋を作っていきたいと思っています。どうか私たちとともに、子どもたちの「今」と「これから」を応援してください。

「子どもの家ファミリープログラム」のご案内

「子どもの家」で暮らす子どもたちの「ファミリー」として、子どもたちの「今」と「これから」を応援していただけませんか? 月々3,000円(1日あたり100円)から開始できます。



↑詳しくはこちら

私たち、戻ってきました!

あもう

今年再入職した3名のスタッフ(吉田・柴田・天羽(中村))が、復帰した理由や今後への決意を語り合いました。

~私たちが戻ってきたワケ~



天羽: 私は2017年に退職した後、子ども2人の育児に奮闘する日々でしたが、昨年11月、アイ (中村) キャンから「在宅勤務中心でパートタイムならできるか」という話があり、今の自分にできる形でまたアイキャンで働くことができるなんて、こんなにありがたい話はない、と思い、今年1月に再入職しました。そうしたら、文さんと柴田くんも4月から復帰すると聞いて、とても驚くと同時に嬉しかったです。



吉田: 私は家庭の都合でアイキャンを離れましたが、コロナ禍でも職員が人々に寄り添って活動するのをネット等で見て、何もできない自分が悔しく、どうして私はあの場にいないのかと悶々としていました。また、子どもを出産し、過酷な環境で生きる子どもたちに一層胸が痛むと同時に、未来の社会を少しでも良くしたいと強く感じていました。そんな中、アイキャンが人手不足と聞いて居ても立っても居られなくなり、再入職を決意しました。



柴田:私は、駐在していたジブチの事業終了と同時に、アイキャンを離れました。しかし、また現場に戻って社会課題に直面している人々と活動したい気持ちが日に日に強くなっていきました。昨年12月、「子どもの家」の子どもたちと交流するクリスマスチャリティーイベントの運営に関わらせてもらい、その後フィリピン駐在員募集の話を聞いたときは、私も二人と同じく居ても立っても居られなくなり、気づいたときには応募していました。

~以前勤めていた中で印象に残っていること~

吉田:約10年いた中で特に印象的なのは、2013年の台風ハイエン被害への緊急救援です。大規模な災害への対応で、職員は十分な睡眠も食事もとれませんでしたが、多くのボランティアさんが、業務的な面だけでなく精神的にも支えてくれました。「何かしたいと思っていた。活動できる場を作ってくれてありがとう」と言われたときは、人々と「ともに」が体現できていると実感しました。



天羽:ボランティアの方をはじめ、パートナーさんの言葉に救われることってありますよね。私も、未投函はがきのご寄付に同封されていたお手紙に「私は現地で活動することはできないので、皆さんに託します」とあったのが印象に残っています。ご寄付を通して「何かしたい」という想いを私たちに託してくださっていると思うと、その方たちの分も一層頑張らねばと身が引きしまりました。



柴田:私も、インターン時代に、あるボランティアさんから次の言葉を頂きました。 「私は行きたくても現場に行くことはできない。だから自分のできることを日本でしているけど、私の分もいつかあなたが現場に行って活動してほしい」。 この言葉を聞いたとき、いつか絶対にアイキャンの駐在員として帰ってきたい、 そして皆さんの想いを現場の人々に届けたいと心に誓ったことを覚えています。



~戻ってきた今、アイキャンをどうしていきたい? 今後について~

柴田:私は、フィリピンで直接事業に携わる立場として、日本の皆さんへ、現場での 日々の活動について積極的に発信していきたいです。頂いたご寄付がどのように 使われているのか、「見える化」に力を入れることで、より信頼される団体を目 指したいです。



吉田:「見える化」、大事ですよね。コロナ等外的要因が重なり、資金面が過去例をみないほど厳しい状態なので、パートナーさんを増やし、活動を安定させたいです。 パートナーさんとの接点も増やし、よりよい社会の創造をともに目指す仲間の声を聞き、対話をして、私自身も学ばせてもらい、活動に活かしていきたいです。



天羽:本当に、私たちだけの力では活動は成り立たなくて、ともに活動してくださる パートナーさんの存在があってこそ、ですよね。立場は違っても、課題の解決に 向けて「想い」をともにするパートナーの方の声を大切に、そして新たなパート ナーの方を増やせるよう、日本での活動にも力を入れていきたいです!

フィリピンに行って、見て、触れて、感じる!

夏のスタディッアーを開催します!

「社会」と「私」と「未来」を変える5日間。 一生モノの経験と、一生モノの思い出を。

A日程:2023年8月23日(水)~8月27日(日) 【日程】

B日程: 2023年8月30日(水)~9月3日(日)

【旅行代金】98.000円 *7月20日までの早期お申し込みで5.000円割引!

お勧めポイント1. 現地の人々、子どもたちとの交流満載!

2. 児童養護施設「子どもの家」に宿泊する、ここでしかできない経験!

3. 参加資格は「楽しみたい!」という気持ちだけ!





↑詳しくはこちら

参加者の声 古川 愛菜 さん

私は大学で国際協力を学んでいましたが、国際協力活動に自分が参加するのは難しいと感じて いました。しかし、子どもたちと交流することで、一人一人の名前と顔が浮かぶようになり、問 題がより身近になりました。そして、大きなことはできなくても、私だからこそ笑顔にできた子 たちがいたと思うと、今の自分にできることと向きあえばよいのだと実感しました。力強い言葉 と元気をくれた子どもたちとアイキャンのスタッフさんたちに、感謝の気持ちでいっぱいです。

あなたのアイキャン (できること) をお寄せください!

1. 未投函はがき・未使用切手など

未投函の官製はがき、未使用切手、テレフォンカード、商品券、収入印紙がお手元にあ りましたら、封筒に入れて、アイキャン日本事務局までご郵送ください。

ハガキ1枚は、例えば、フィリピンの子どもが勉強するためのノート1冊分になります!



↑詳しくはこちら

2. リユース寄付(古本・DVD・ゲーム・おもちゃ等)

ブックオフコーポレーションと連携した、物品によるご寄付の形です。 ブックオフの買い取り額が、アイキャンの活動に役立てられます。







↑詳しくはこちら

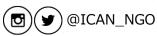
特定非営利活動法人アイキャン(ICAN)

アイキャンは、一人ひとりの「できること」を持ち寄り、貧困・紛争・災害による影 響を受けた子どもの能力向上や地域の環境改善に取り組む国際協力NGOです。

住所: 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄1-31-30 パルナス栄504

TEL/FAX: 052-253-7299 (火~土 11:00~18:00) MAIL: info@ican.or.jp

WEB: https://ican.or.jp/





WEB OR